

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として、平成28年4月1日に設置期間3年の講座として設置されました。その後、それまでの実績を踏まえ、本県における医師の地域偏在の解消、地域医療の充実、地域医療に従事する医師育成のためには、引き続き取り組みの継続が必要との熊本県（寄附者）の判断から、平成31年4月及び令和4年4月にそれぞれ3年間の延長がなされており、令和6年度は3期目の最終年度となりました。

本講座は、設置目的でもある地域医療を担う医師の養成を目指して、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」、「総合診療医の育成」、「地域医療実践教育拠点の運営」など、より実践的な取り組みを進めて参りました。

令和6年度においても、熊本大学医学部医学科の学生（熊本県医師修学資金貸与学生を含む。）や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた地域医療マインドの涵養に取り組むとともに、今後、本県の地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成に向けて、県内の公的病院等の連携を進めるに当たっての中心的な役割を担いました。また、総合診療専門医の育成のために県北及び県南地域に設置している教育拠点において、地域の医療機関に対する積極的な診療支援を行いました。

【主な活動内容】

1. 調査研究
2. 教育活動（卒前教育（カリキュラム外）、卒前教育（カリキュラム内）、卒後教育）
3. 教育拠点への支援
4. 地域医療支援

【スタッフ】

地域医療・総合診療実践学寄附講座

特任准教授	荒木 智（総合診療科）
特任助教	佐土原道人（総合診療科）
特任助教	北村 泰斗（総合診療科）
事務補佐員	山並 美緒、木口知佳子

熊本大学病院 総合診療科

教授	松井 邦彦
医員	松田 圭史

総合診療専門研修プログラム専攻医

本田 宏介、西富 友哉、足立 瑛彦、 田添 英典、藤本 千里

くまもと県北教育拠点（くまもと県北病院）

県北教育拠点指導医	田宮 貞宏（総合診療科）
熊本大学非常勤講師	小山 耕太（総合診療科）
特任助教	中村 孝典（総合診療科）

河浦教育拠点（天草市立河浦病院）

特任助教	鶴田 真三（総合診療科）
------	--------------

2. 活動報告

(1) 調査研究

① 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生の将来のキャリア支援と定着要因の解析のために、地域医療特別実習の教育的効果を見るためのアンケートを例年実施しており、令和5年度に行った実習のアンケート結果は、令和6年(2024年)5月の米国総合内科学会で発表を行いました。

また、参加した学生も参加者の立場からの経験を令和6年(2024年)5月の第10回九州地域医療教育研究会と同年6月の第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で発表を行いました。

② 研究公正・倫理の学修コンテンツ開発に関する研究

令和5年度(2023年度)から、AMED(日本医療研究開発機構)の研究公正高度化モデル開発支援事業の「臨床研究者による活用を目指した臨床研究技能と研究公正の統合学修の実用化」の分担研究開発を行っています。

③ 教育拠点での教育効果についての検証

熊本大学病院総合診療科、各教育拠点が、総合診療専門研修プログラムの基幹施設、連携施設という関係で専門研修プログラムを運用しており、同時に指導教員と総合診療専攻医が初期臨床研修医、地域医療・総合診療に係る学生実習の指導も行っています。

くまもと県北病院教育拠点については、3名の総合診療専攻医が勤務し、天草市立河浦病院教育拠点は、1名の専攻医が配属されています。令和6年度(2024年度)においても、レジデントデイなど定期的開催し、教育効果についてヒアリングし、プログラム管理委員会で諮問して、プログラムの教育効果の検証と改善に取り組みました。

(2) 教育活動

① 卒前教育(カリキュラム外)

● 修学資金貸与学生の支援

将来、地域の病院で勤務することとなる貸与学生に対して、一人一人の状況に応じた助言や個人の相談に対応するため、年度当初(6月)に、地域医療支援機構と連携して当寄附講座教員が、貸与学生35名(既卒者1名を含む)の面談を実施(県外大学在学の2名の貸与学生を除き、全員対面形式で実施)しました。

面談においては、生活状況や将来の希望等について聞き取り、各学生の状況に応じた生活面、学習面等に関して指導、助言を行いました。特に6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について義務の履行とキャリア形成の両立に関して個別具体的なアドバイスを行いました。

● 地域医療ゼミ

地域医療ゼミは、地域枠学生等(熊本県医師修学資金貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生)を主な対象に実施しており、令和6年度は計11回開催しました。

上期では、4月のオリエンテーションを皮切りに、5月は災害医療教育センターの笠岡教授や内藤先

生にもご協力をいただき、避難所運営ゲーム(HUG)を用いながら「避難所運営実習」を実施、避難所の運営や管理について学びました。6月は熊大と自治医大をオンラインで繋ぎ「CBT/OSCE」への取り組みや試験対策について学び合い、9月には、映画「人魚の眠る家」を題材にしたシネメデュケーションを実施しました。

下期は、10月に地域医療の最前線で活躍する地域卒医師や自治医卒医師による講演を開催し、ワークライフバランスについて考える機会となりました。11月には、5年次の選択カリキュラム「地域医療総合演習」との教育セッションとして高齢者総合機能評価(CGA)について、レクチャーやグループワークを交えて学び合いました。12月には、自治医大企画として「緩和ケア」をテーマに、オンラインで実施。自治医大卒の4名の医師にもファシリテーターとして協力いただきながら、その課題や解決策についてディスカッションを行いました。1月には、解剖の学び直しを行い、2月には、県医療政策課の協力もいただきながら「制度とキャリア」について学び、3月の追いゼミで1年間の取り組みを総括しました。

(詳細については33ページを参照)

● 夏季地域医療特別実習

地域医療特別実習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しています。当実習は、これから地域医療に従事することが予定されている学生が地域の行政関係者及び医療・福祉関係者等に対する聞き取りを通して地域の問題点を探り出すとともに、自らが見聞して体験することで、地域を知り、地域との関係性を身近にする中で、地域医療に前向きに取り組んでいく意欲を醸成することを主な目的としております。

夏季実習は、8月13日(火)～14日(水)の一泊二日の日程で、上球磨地域(多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町)及び五木村において実施し、貸与学生等19名(うち1名は一般学生)及び自治医大生9名の計28名が参加しました。協力拠点病院の公立多良木病院では、人吉保健所長から、人吉・球磨地域の医療提供体制についての保健所の取り組みについての講話を聴いたほか、病院長から、病院の説明や案内をいただきました。その後、参加者を4つのグループに分け、グループごとに設定した4つのコースでフィールドワークを実施し、各コースに設定された医療機関、高齢者施設、まちづくり関連施設等を訪問し、地域医療に関わる現場を多様な側面から体感しました。発表会では、学生らが実習で学んだ成果等をグループごとに発表し、実習に協力いただいた行政機関やまちづくり団体の方々との意見交換も行いました。

● 冬季地域医療特別実習

冬季実習は、12月25日(水)～26日(木)の一泊二日の日程で、上益城地域において実施し、夏季実習に参加できなかった貸与学生9名が参加しました。山都町役場では、町から事前に提供を受けた資料を基にして、山都町の保健医療の現状や課題等に関するディスカッションを行いました。協力拠点病院のそよう病院では、病院長から病院の説明や案内をいただいたほか、同病院に勤務中の貸与医師から先輩医師としての体験談や学生へのアドバイス等をいただきました。このほか、へき地診療所、高齢者施設、まちづくり関連施設等の見学を行うとともに、そよう病院が立地する地域(馬見原地区)を踏査するまち巡りも実施し、地域医療に関わる現場を多様な側面から体感しました。

② 卒前教育(カリキュラム内)

熊本大学医学部のカリキュラムとして、①医学科4年次学生を対象にした総合診療学、②医学科5年次学生を対象とした選択科目の地域医療総合演習、③医学科5・6年次学生を対象にした特別臨床実習(総合診療科)を担当しました。

● 総合診療学

4年次の学生に対して、全10コマの講義を下記のとおり実施しました。

実施日	科目(講義内容)	担当教員
4月9日	総合診療学概論1 (総論)	松井 邦彦
4月16日	総合診療学概論2 (EBM、診療ガイドライン)	荒木 智
4月23日	総合診療学概論3 (臨床推論)	佐土原道人
5月7日	総合診療学概論4 (身体診察)	佐土原道人
5月14日	総合診療学概論5 (家庭医療学1)	高柳 宏史
5月21日	総合診療学概論6 (家庭医療学2)	高柳 宏史
5月28日	総合診療学概論7 (病院総合診療)	小山 耕太
6月4日	総合診療学概論8 (高齢者ケア、地域包括ケア)	鶴田 真三
6月11日	臨床推論演習1 (体重減少)	北村 泰斗
6月18日	臨床推論演習2 (倦怠感)	中村 孝典

● 地域医療総合演習

地域医療総合演習は、医師が地域医療に従事する際に求められる医療者教育を実践するための知識・能力の獲得を目的として、令和5年度から始まった新たな取り組みです。5年生の選択科目(全8コマ)となっており、令和6年度は4名の学生が履修登録をしました。

令和6年度は、「高齢者総合機能評価」を教育テーマとし、高齢者の総合機能評価や認知機能について理解し、疑似症例の評価ができるようになることを目標に設定し、下表のカリキュラムに沿って実施しました。

演習の前半は、教育計画書作成のための基礎知識の習得や教育評価についてのワークショップを実施したほか、11月の地域医療ゼミとの教育セッションにおいて実施する「教育演習」に向けての準備を行いました。11月の地域医療ゼミでは実際に講師となっており、ゼミ受講生に対して教育実践を行いました。最後の1コマは、受講生の事前・事後アンケートの結果の考察とともに、教育実践の内省的振り返りをもとにしたカリキュラム評価を行いました。

【担当教員:高柳 宏史】

実施日	内容
4月11日	「教育計画書作成のための基礎知識」
5月9日	「教育テーマ決定」「教育方略・ファシリテーション」
6月13日	「事前アンケート作成に関して」「教育評価について」
7月11日	「教育評価について(WS)」
9月12日	「教育演習に向けて」「役割分担・準備」
10月10日	「教育実習にむけて」「スライド最終チェック、事後アンケート作成」
11月21日	「地域医療ゼミ(教育演習)」
12月12日	「カリキュラム評価」「事後アンケート集計・分析・考察・振り返り」

● 特別臨床実習（総合診療科）

令和6年度の総合診療科の特別臨床実習は、大学病院、くまもと県北教育拠点及び河浦教育拠点の3か所で行い、令和6年度は5年生、6年生合わせて、延べ42人の学生を受け入れ、臨床実習を実施しました。

● その他の講義等

その他、以下の授業を担当しました。

- ・医学総論（1学年）※ファシリテーター
- ・臨床実習入門医療面接（4学年）
- ・行動科学（4学年）
- ・公衆衛生学（4学年）
- ・PostCC/OSCE（6学年）
- ・IGD/IGE（6学年）

② 卒後教育

● 地域医療に従事する修学資金貸与医師への支援

令和6年度においては、65名の修学資金貸与医師のうち、県外の医療機関に勤務する1名を除く64名が県内の医療機関で医師業務に従事（このうち、14名が特に医師の確保が困難な第2グループの病院に勤務）しました。

地域医療に従事する貸与医師への支援策の一環として、地域医療支援機構と連携し、貸与医師65人全員について面談を実施し（県外の医療機関に勤務する貸与医師1名を除き全て対面で実施）、専門医としてのキャリア形成と義務履行の両立が図られるように、一人一人の実状に沿ったアドバイスを行いました。

● 初期臨床研修医に対する指導

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科を選択した初期臨床研修医1人に対し、内科分野および外来研修の教育指導を行いました。

● 専攻医に対する指導

熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、令和5年度に本プログラムを修了した専攻医2人が令和6年度の総合診療専門医の資格試験に合格しました。令和6年度においては、6名の専攻医がそれぞれの基幹施設および連携施設で勤務を行いました。当寄附講座においては、地域で必要とされている総合診療医の育成に向けて、レジデントデイ等の取り組みをはじめ、様々な機会を通じて専攻医に対して必要な指導を行いました。

【レジデントデイの開催】

当寄附講座では、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオ（経験省察録修記録）の作成指導等も行っており、テレビ会議システムも活用して、次のとおり、4回のレジデントデイを開催し、専門研修の進捗状況の確認を図り、よりきめ細かい指導を行うとともに、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導を心がけました。

《開催日時等》

- 第1回：令和6年3月14日（木）19：00～（オンライン開催）
- 第2回：令和6年7月17日（水）18：30～（オンライン開催）
- 第3回：令和6年12月7日（土）16：00～ 熊本大学病院 山崎記念館
- 第4回：令和7年3月14日（金）19：00～（オンライン開催）

● 専門医資格取得後のキャリア支援

本講座では、専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を実施しています。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴で、総合診療専門医取得後の5年間は、指導医取得に向けてこれまでも増して重要な時期であるとの考えのもと、様々な指導、支援を実施しています。

令和6年度においても、熊本県内に多数存在する連携機関の協力のもと、専門医資格取得後、変化する各人の様々なニーズに即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を支援した。1名の専門研修修了者が、緩和ケアの研修を行いました。

また、本寄附講座においては、教員が地域支援先でカンファレンスや相談に応じるほか、対象の医師に対して英語論文の執筆支援も行っています。

さらに、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す者への支援も実施しており、それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の取得に向けての指導を行っています。令和4年度からは、社会人大学院学生として、5名が博士課程に在籍しています。

● 総合診療セミナー等の開催

若手医師に総合診療の魅力を伝えながら総合診療プログラムを周知し、熊本大学病院の総合診療の知名度向上を図るとともに、熊本県内及び九州全域において総合診療医の連携強化を図ることを目的とした勉強会である「総合診療セミナー」を令和2年度から開催しています。令和6年度は、総合診療に関心のある若手医師、学生等の総合診療への理解がより深まるよう、次のとおり2回の総合診療グランドラウンドを開催しました。

《開催テーマ等》

7月13日「講演会・症例検討会」

講師：飯塚病院総合診療科 診療部長 清田 雅智 先生

9月13日「生成AIと地域医療・総合診療教育」

講師：岡山大学学術研究院医歯薬科学域 地域医療共育推進オフィス
特任准教授 香田 将英 先生

● 総合診療医育成のためのPR活動

＜SNSやホームページを活用した総合診療科のPR＞

熊本大学病院の新たな診療科として令和3年3月に設置された総合診療科について、総合診療の魅力、必要性、重要性等を医療関係者のみならず一般の方々に理解を深めてもらうために、Instagramやフェイスブック等のSNSを活用して総合診療科の活動状況等を広く紹介しています。

＜熊本大学病院総合診療科ホームページの運用＞

令和5年度に新たに開設した総合診療科のホームページを引き続き運用し、当寄附講座のホームページとリンクするなどして、総合診療の魅力等について理解を深めていただくための多様なPR活動に取り組んでいます。

● 総合診療特別研修プログラムの提示

令和2年度、新しいキャリア支援策として、専門研修に進む卒業3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前に知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築しました。「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」の更新に当たって、4年度からキャリア支援策の一つとして同プログラムに掲載し、受け入れできる体制を作っていますが、まだ適用事例はありません。

3. 教育拠点

① 教育拠点設置の目的

地域医療に貢献できる優秀な医師の養成を円滑に行いつつ、地域における診療活動を通じた教育・研究を推進することで熊本県内における地域医療の再生に資することを目的に地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点を設置しています。

令和3年4月から河浦教育拠点を設置するとともに、「公立玉名中央病院」が組織を改編して「くまもと県北病院」となったことで、同年10月から玉名教育拠点に変えて新たに「くまもと県北教育拠点」を設置しています。

それぞれの教育拠点には、当寄附講座から教員を配置して、地域の施設において求められる医療の提供を行いながら、専門研修医、初期臨床研修医、卒前の医学生に対する教育、さらに研究を実施する施設として、以下の役割を担っています。

② 教育拠点の役割

- i. 総合診療専門医の養成
- ii. 熊本大学病院の臨床研修協力型病院として臨床研修医の教育
- iii. 自治医科大卒医師(自治医)の指導・教育
- iv. 総診特別プログラムに従事する医師の指導
- v. 義務償還のために地域の施設で総合診療医として勤務する他の診療領域の修学資金貸与医師の指導
- vi. 医学部学生の教育(臨床実習の受入れ)
- vii. 病院での臨床に即した研究、地域医療のあり方、教育や人材育成に関する研究、調査

③ 教育活動内容

くまもと県北教育拠点では、熊本大学医学部学生の総合診療科の特別臨床実習、地域医療特別実習の受入れを行うとともに、基幹型臨床研修施設としての臨床研修医の受入れと共に熊本大学病院等の協力医療施設として臨床研修医の受入れも行っています。

また、熊本大学病院総合診療専門研修プログラムの専攻医5人が、総合診療科の指導医の下に研修に従事しました。

さらに、卒前教育として、くまもと県北病院で臨床実習(クリクラ)を行った学生に実習の成果等をオンライン(テレビ会議)により発表させ(TMEC)、指導医や熊大病院地域医療支援センターの教員等が、評価及び指導・助言等を行いました。

河浦教育拠点については、現在当講座の教員1人が常駐し、病院での日々の診療に従事しつつ、総合診療特別実習の学生を受け入れ、実習指導を担当しました。また、総合診療科の専攻医2人が、講座教員の指導を受けながら実地の業務に従事しました。

天草教育拠点については、令和4年(2022年)に寄附講座教員が退職した後、後任の特任助教がいない状況が続いています。

4. 地域医療支援の状況

表のとおり、河浦教育拠点及びくまもと県北教育拠点においては、それぞれ本講座から派遣された医師が、その他の医師が不足している地域については本講座所属の医師が、各病院に対する診療支援を行いました。

●令和6年度における地域医療支援実績

医師名	支援先医療機関	支援内容
松井 邦彦	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
荒木 智	有明医療センター	非常勤 通年(週1回)
	天草中央総合病院	非常勤 通年(週1回)
佐土原道人	阿蘇医療センター	非常勤 通年(週1回)
北村 泰斗	くまもと県北病院	非常勤 通年(週1回)
	山都町包括医療センターそよう病院	非常勤 通年(週1回)
鶴田 真三	天草市立河浦病院	常勤
中村 孝典	くまもと県北病院	常勤

この他、熊本県地域医療支援機構／地域医療支援センターと連携し、本講座及びセンターに所属の医師が、大学病院において総合診療科の外来診療に対応するとともに、救急外来診療等も担当しました。

●令和6年度 熊本大学病院 総合診療外来担当医

月	火	水	木	金
荒木 智	松井 邦彦	高柳 宏史	佐土原道人	北村 泰斗
	堤 龍子			

4 地域医療・総合診療実践学寄附講座 教育拠点

----- くまもと県北教育拠点 -----

1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、前身の公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院 くまもと県北教育拠点」として移転し、2025年3月現在、指導医4名、総合診療専門医研修の専攻医3名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポート(非常勤医師2名)もあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2024年卒後臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:5名、2年次:4名、協力型:1名)、特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れも積極的に行っております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。10年経過した現在までに、診療面については救急車不応受率4%を下回り、救急車受け入れ台数も3400台/年以上を維持(いずれも県北地域最高の成績)しております。結果、2024年度も基幹型研修医は比較的高いマッチ率を維持しております。

教育面については、タイ国のメーファールアン大学医学部との教育協力協定を更新し、日本では経験し難いCross border community medicine(国境を越えた地域医療)研修を当院研修医2名が国際医療実習の枠組みで実施しました。

研究面については、学会発表はもとより、くまもと県北病院卒後臨床研修医による、筆頭著者での英文誌へのケースレポート執筆(昨年度1名達成)も推進しています。更に、言うまでもありませんが、当拠点は地域医療において円滑に発展し、行政並びに玉名郡市医師会とも引き続き協力し、常に前進する次第です。

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	10	がん拠点病院カンファレンス
	26	研修医振り返り
5	2, 29, 30, 31	研修医振り返り
	16	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	31	研修医症例カンファレンス
6	1, 2	研修医ふり
	13	マイレジナビ@「熊本城ホール」
	20	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	14, 18	研修医症例カンファレンス
7	12, 26	研修医症例カンファレンス
	25	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
8	1	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
	9	研修医症例カンファレンス
	15	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	22	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
	30	第3回熊本県Resident Web Seminar
9	13, 27	研修医症例カンファレンス
	5	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
	25	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
	5, 20	研修医振り返り
10	16	有明地区研修医合同カンファレンス
	25	研修医症例カンファレンス
	3	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
	17	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	24	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
11	2, 18, 30	研修医振り返り
	1	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
	21	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
12	8	研修医症例カンファレンス
	12, 13	研修医症例カンファレンス
	5	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
	19	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
1	26	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
	1	研修医症例カンファレンス
	12, 26	阿蘇医療センター総合診療科合同 症例カンファレンス
	16	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	23	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
2	9	研修医振り返り
	1/27-2/7	研修医2名 メーファールアン大学実習 Cross border community medicine
	6	自治医医師地域医療教育支援 (Web)
3	20	自治医医師地域医療教育支援@「球磨郡公立多良木病院」
	27	自治医医師地域医療教育支援@「上天草総合病院」
3	未定	初期臨床研修 修了式

3. 活動報告

(1) 教育活動

● 特別臨床実習

熊本大学医学部の1ターム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエスチョンを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

また、教育協力協定を締結しているメーファールアン大学医学部に、当院研修医2名を派遣し、タイ及びラオスでの国境地域医療実習を実践しました。この取り組みは、研修医実習の一貫で、将来の人種多様性にも順応に対応できる医師を育成する為、言葉や文化の違いを体験することを目的にしています。

一方で、くまもと県北教育拠点責任者で総合診療科部長の小山先生が、教育拠点での成果を基に、2023年4月から熊本県医療政策課に熊本県へき地医療支援機構 専任担当官として着任し、教育対象を県北地域から熊本県全土に広げ、特に自治医科大学医学部学生及び卒業医師、熊本県医師修学資金貸与医師の教育支援に取り組んでおります。

今後、熊本県地域医療発展のため、多くの視点、広い視野、俯瞰して見る/診る視点の高さを追求し続け、多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めます。

～くまもと県北教育拠点における週間スケジュール～

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケア レクチャー	プレゼン 研修	
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or	外来レビュー/ 各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	緩和ケア回診 (不定期)	病棟研修	病棟研修
16:30	新患 カンファレンス	病棟研修	or 病棟研修		皮膚科 合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケア レクチャー	プレゼン 研修	
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or	外来レビュー/ 各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	緩和ケア回診 (不定期)	病棟研修	病棟研修
16:30	新患 カンファレンス	病棟研修	or 病棟研修	TMEC	皮膚科 合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

プライマリケアレクチャー：熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
 モーニングレクチャー：臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
 リエゾンカンファ：総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
 TMEC：クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会

教育拠点

「ゆっくりだけど、確実に前進」



ラオス国境地域医療実習



タイ少数民族に対する地域医療実習

● 初期臨床研修（総合診療科研修）

2024年度はくまもと県北病院の基幹型研修プログラムに5名の研修医がマッチし、基幹型2年次4名と国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として1名、計10名の初期臨床研修医（研修医）を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

結果、2025年度の基幹型卒後臨床研修医は7名マッチを達成しました。

● モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは、各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



● 講演会・セミナー

コロナ感染症が5類感染症に社会的には移行され、多くの学会が対面式に切り替わりました。これに伴い、「日本病院総合診療医学会九州地方会」「有明地区研修医合同カンファレンス」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」が現地開催され、当院研修医・専攻医が症例発表を行いました。

● 総合診療専門医（専攻医）研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しております。2023年4月から、本プログラム2期生で、家庭医療専門医の中村孝典先生が教育医長として着任され、プログラム出身者ならではの専攻医目線の研修を実践が可能となり、新たな取り組みを実践しております。

教育拠点として、常に前進し続け、地域医療を担う新たな人材育成を今後も担っていく所存です。昨今話題の医師の働き方改革にも対応し、専攻医の身体的・精神的負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。その様な中、2025年度からは3名の新しい専攻医を迎えることになり、今後の更なる発展が期待されます。

(2) 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談（院内コンサルテーション）や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点に常駐する指導医5名（内科専門医・指導医、プライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医、総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

●くまもと県北病院 総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
中本	中村	田添	中本	藤本
藤本	足立		松井	大里
佐藤				
佐藤（午後）				佐藤（午後）

(3) 年間診療報告

玉名拠点開設から10年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来も担っています。入院患者数も増加傾向にあり、教育環境の更なる改善も可能となってきました。

また、救急診療では受入件数も熊本県北地域最多を維持しており、不応需率も低い値で推移しています。



2024年度 研修医 全11名
くまもと県北病院基幹型：10名（1年次：5名、2年次：5名）
熊本医療センター：1名（2年次）

1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。地域医療を行っていく中で、実践的なレジデント教育を行っています。2024年度は、レジデント修了直後の下地先生が残留していただきました。新年度は新たにレジデントが赴任します。また、熊本大学医学部よりクリクラ学生を受け入れています。

2. 行事

熊本大学クリクラ学生の受入
赤十字熊本病院初期研修医の受入

セミナー等については下記をご覧ください。

3. 教育活動

● 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)で1ターム3週間の実習を受け入れています。「総合診療」「地域医療」の枠を問わず、僻地のプライマリケアとしての実習を行っています。昨年度に引き続き、社会福祉協議会、地域包括支援センターでの院外実習も行っています。医療だけでなく介護、福祉との連携から地域を見る視点を育み、おおむね学生からも好評です。また、地域の方との交流として、時期が合えば地域探検、釣りなども経験してもらいました。

● 看護学生

今年度から、天草内にある看護学校で数回の授業を担当させていただきました。在宅医療、地域医療をテーマにした授業も担当させていただき、天草での医療の楽しさ、充実感を伝えることができたと思います。

● 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。

● 後期研修

前年度でレジデント修了を迎えた下地先生が、引き続き当院で活躍されました。外来患者数は緩やかですが徐々に増えてきました。また、天草地区にある高浜巡回診療所と、その近くの施設の専任担当になり、地域の中での巡回診療所運営や施設との連携をメインで行ってもらうことで、無医地区の外来診療のみならず、診療所の運営、地域や行政との関り等も学ぶ絶好の機会となっており、若手として貴重な経験を積んでいます。

また、院内外での多職種教育や地域活動、地域住民向けのヘルスプロモーション活動なども積極的に取り組んでもらっています。2025年度以降も新たにレジデントが赴任する計画もあるため、個々の目標や能力に合わせて研鑽を積める環境を準備していきます。

4. 診療

	月	火	水	木	金
鶴田	初診 + 再診	初診 + 再診	初診 + 再診		
下地				サテライト診療所	初診 + 再診

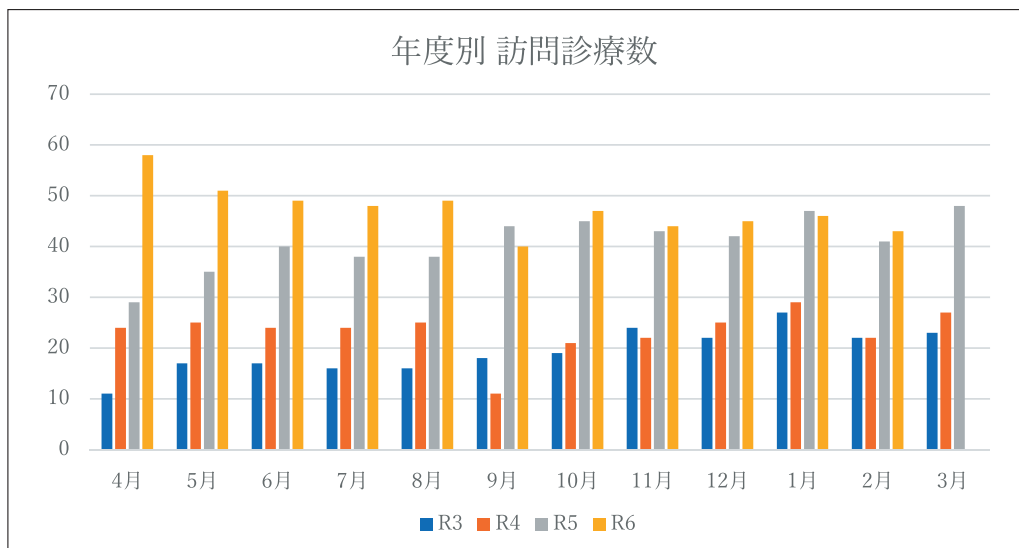
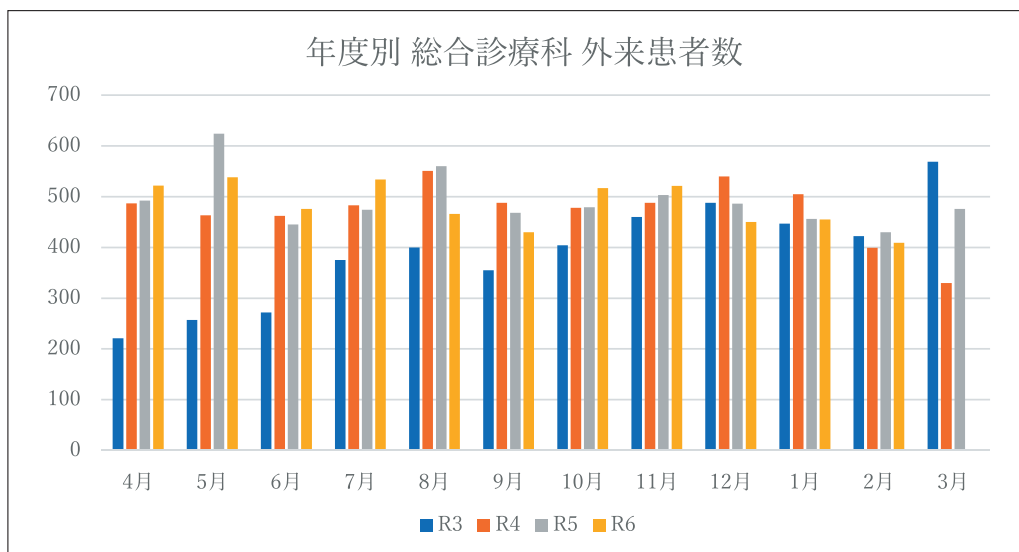
訪問診療はチームで分担 火・水・金

5. 年間診療報告

総合診療科としての外来患者数は、今年度は昨年度と同程度の数でした。ただ、人口減少やCOVID-19等の影響により病院全体としては昨年度より外来患者数が減っていることを考慮すると、総合診療科の貢献度は上がっていると言えます。

また、患者数のグラフには入っていませんが、天草町にある高浜巡回診療所でも診療を行っており、下地先生にメインで担当していただいています。2024年度からは遠隔診療もスタートし、現時点では主に当科が担当しています。今後、地域のニーズによって増加してくるかもしれません。このほか、訪問診療数は年々増加してきています。

前年度まで同様、総合診療科として、地域のニーズに答えてきた結果だと思えます。



6. セミナー

住民向け講座を昨年に引き続き継続しています。また、院内多職種教育についても昨年同様、開催してきました。

河浦・天草地区での地域活動を行っているしきちの会の一員として、今年度も鶴田、下地は関わっております。ここでは地域の医療・介護・福祉の多職種向けの勉強会として、今年度は食支援をテーマに年3回に分けて開催した勉強会に協力しています。このほか、他院との合同勉強会や、介護施設に特化した施設への啓発活動など、新たな取り組みも行ってまいります。

● 住民向け講座

- 9月24日 笑○クラブ講話
- 10月8日 下田紅はるか講話
- 10月16日 公民館講座
- 11月11日 野中あまなつ会講話
- 12月3日 秋葉老人会講話
- 12月4日 こつこつ会講話
- 12月17日 久留ひまわり会・2025会講話
- 1月15日 白木河内老人会講話
- 1月28日 下田南老人会講話
- 2月25日 下津留老人会講話

● 地域の祭への参加

- 3月29日 一町田さくら祭

5 熊本県医師修学資金貸与学生からの報告

1. 地域医療ゼミ

(1) 概要

現在、熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は34名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、コロナ前のように対面での開催が中心となりましたが、オンラインの利点も生かしながら全11回のゼミを実施することが出来ました

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
7人	9人	2人	4人	5人	7人

(2) 活動内容

● 第1回「オリエンテーション」(2024年4月18日/対面にて開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生7名の紹介と、県庁医療政策課の方から熊本県医師修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムについての説明を行いました。その後、レクリエーションを行い、学年を超えて親睦を深めることが出来ました。



● 第2回「避難所運営実習」(2024年5月16日/対面にて開催)

避難所運営ゲーム(HUG)を用いて、避難所運営・管理を学びました。ファシリテーターとして、当センター教員に加え、災害医療教育研究センター 笠岡教授、内藤先生にご協力いただきました。グループワーク後、笠岡教授に講評を頂き、自然災害による健康被害を防ぐポイントについてご講話いただきました。



● 第3回「医学科サバイバル CBT/OSCE」
(2024年6月20日/オンラインにて開催)

熊大と自治医科大の5年生が、臨床実習前に実施されるCBTとPre-CC OSCEへの取り組み方や試験対策についてレクチャーを行いました。例題への取り組みや質疑応答の時間もあり、下級生にとって良い刺激となり、試験に対する不安を解消する機会となりました。



● 第4回「夏季地域医療実習説明」(2024年7月18日(木)/オンラインにて開催)

8月13日・14日に実施する夏季地域医療特別実習について、地域医療・総合診療実践学寄附講座、地域医療支援センターの教職員より事前説明を行いました。参加学生たちは、実習のスケジュール及び訪問地区別の班分けを確認し、自己紹介、リーダーの決定、連絡先の交換等を行いました。



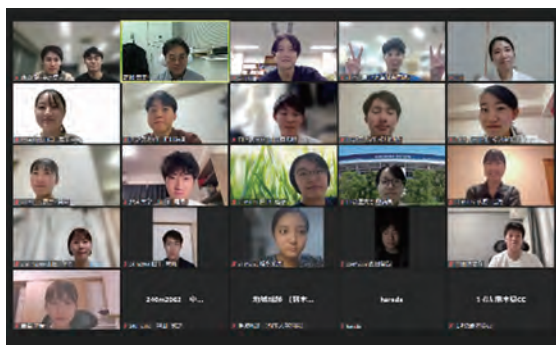
● 第5回「シネメデュケーション」(2024年9月19日/対面にて開催)

映画「人魚の眠る家」を題材としたシネメデュケーションを実施しました。脳死や臓器提供への向き合い方など生命倫理について考える機会となりました。視聴後は、グループ毎に感想を共有し、医師として遺族への寄り添い方など初めて考えさせられた学生もいたようです。地域枠の先輩医師である平賀先生にご参加いただき、経験に基づいたお話をして頂きました。



● 第6回「地域枠医師・自治医卒医師による講演」
(2024年10月17日/オンラインにて開催)

地域医療の最前線で活躍する地域枠医師1名と自治医卒医師2名にご講話いただきました。皆さんご自身のキャリアとライフイベントについて詳しくお話くださり、学生にとって、将来の自分の姿を具体的に想像し、ワークライフバランスについて考える機会となりました。



● 第7回「今日からできる！！高齢者総合機能評価（CGA）」（2024年11月21日／対面にて開催）

昨年度から始まった5年次の選択カリキュラム「地域医療総合演習」の教育セッションとして実施しました。高齢者総合機能評価（CGA）について、5年生が講師となりレクチャーやグループワークを交えて学び合いました。参加学生にとってはCGAへの理解が深まり、5年生にとっては指導する立場を経験し多くを学ぶ機会となりました。



● 第8回「自治医科大生企画～緩和ケアについて～」（2024年12月19日／オンラインにて開催）

自治医科大生の企画として「緩和ケア」をテーマに実施しました。自治医卒医師に事前インタビューした内容を共有後、グループワークで地域医療における緩和ケアについての課題とその解決策について話し合いました。自治医卒医師4名にもファシリテーターとしてご協力いただき、現場で働く医師の意見を伺うことができました。

● 第9回「解剖学びなおし」（2025年1月16日／対面にて開催）

5年生のレクチャーで解剖学の復習を行った後、今年度解剖実習を経た2年生を中心に作成した問題に取り組みました。参加学生からは「他学年と交流する機会になった」「試験を控えているので対策になった」と好評でした。



● 第10回「制度とキャリア」（2025年2月20日／対面にて開催）

当センター教員の講話で、キャリア形成における自身の価値観をアウトプットする自己評価のワークを行い、専門医制度の説明により専門領域選択の流れを理解する機会となりました。次に、県庁医療政策課から熊本県医師修学資金貸与制度について説明が行われ、内容を再確認することができました。



● 第11回「追いゼミ」（2025年3月21日／対面にて開催）

今年度最後となったゼミでは、一年間の総括として、地域医療ゼミ及び地域医療総合演習の報告、夏季・冬季地域医療特別実習の報告、皆勤賞・功労賞の表彰、幹事学年の交代や4月からの地域医療ゼミの実施計画について説明が行われました。

その後開催された追いコンでは、卒業生の挨拶、花束贈呈を行い、6年生の卒業を祝し、大いに盛り上がりました。



2. 地域医療特別実習

(1) 概要

本実習は、熊本大学病院 地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座が、熊本県地域医療支援機構と連携し、熊本県医師修学資金貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生を主な対象に、将来、熊本県の地域医療に携わる医学生が、県内の地域（熊本市を除く）を訪れ【地域を知る】ことに視点を置いた企画・構成で、毎年、実施しております。

この実習では、実地でのフィールドワーク等を通して、地域の医療・保健・福祉等の現状や課題について学ぶことで、参加学生が多方面から広く地域を知り、地域との関係性を構築するとともに、地域医療に取り組む学生の意欲を醸成し、今後のキャリア形成に資することができるような企画・構成を心がけて取り組んでいます。

また、例年、夏季に2泊3日で実施していましたが、大学カリキュラムや大会出場等で参加が難しい学生がいることから、より多くの学生が参加できるように、令和5年度から1泊2日の日程で夏季・冬季の年2回実施しております。今年度、夏季は上球磨地域（多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町）及び五木村、冬季は上益城地域（山都町）で実習を行いました。

(2) 夏季地域医療特別実習

夏季実習は、上球磨地域（多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町）及び五木村で行いました。

多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町及び五木村の各自治体、医療機関、そして地域住民の皆様のご協力のもと、フィールドワークやグループ活動など、充実したプログラムを展開することができました。2日目に行われた各グループによる発表会は、実習の成果を共有する良い機会となりました。

また、地域視察では、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた大和一酒造元とホテル サン人吉を訪問しました。当時の被災状況や、そこから立ち上がるまでの苦難、そして現在の復興状況について詳しくお話を伺うことができました。

● 実施日程

2024年8月13日（火）～8月14日（水）

● 実習地域

上球磨地域（多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町）、五木村

● 参加学生

熊本県医師修学資金貸与学生	18名
熊本大学医学部生（一般公募者）	1名
自治医科大学医学部生（熊本県出身者）	8名



● 実習スケジュール

1日目(8/13)

時間	行程
8:00～ 8:15	集合・出発
8:30～10:30	移動
10:30～12:10	講話 (公立多良木病院)
12:10～13:10	ランチミーティング
13:10～17:00	フィールドワーク (A班:水上村) (B班:あさぎり町、多良木町、湯前町) (C班:あさぎり町、湯前町) (D班:五木村、湯前町)
17:00～18:30	休憩
18:30～20:00	懇親会・意見交換会
20:00～22:00	全体発表会準備
22:00	宿泊
18:30～20:30	懇親会・意見交換会
20:30	宿泊

2日目(8/14)

時間	行程
7:00	起床・朝食
8:20	集合
8:30～8:50	移動
9:00～11:10	全体発表会(公立多良木病院)
11:20～11:50	移動
12:00～13:00	ランチミーティング
13:00～13:15	移動
13:15～14:00	令和2年度7月豪雨地域視察 ① (大和一酒造元)
14:00～14:10	移動
14:10～15:10	令和2年度7月豪雨地域視察 ② (ホテル サン人吉)
15:15～17:00	移動
17:00	帰着・解散



(3) 冬季地域医療特別実習

大学カリキュラム等の都合で夏季実習に参加できなかった学生を対象に、12月に1泊2日の日程で上益城地域（山都町）にて、冬季地域医療特別実習（以下「冬季実習」）を行いました。

この度の冬季実習も、上益城地域の自治体をはじめ関係機関の多くの皆さまのご理解とご協力のもと、地域医療をはじめ、地域の町並みや歴史にふれることができ充実した実習となりました。

● 実施日程

2024年12月25日（水）～12月26日（木）

● 実習地域

上益城地域（山都町）

● 参加学生

熊本県医師修学資金貸与学生 9名



● 実習スケジュール

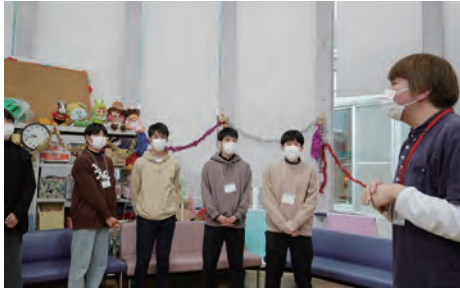
1日目（12/25）

時間	行程
12:45～13:15	集合・出発 (熊本大学病院)
13:15～14:15	移動
14:20～15:20	講話・ディスカッション (山都町役場)
15:25～15:55	移動
16:00～17:00	講話 (そよう病院)
17:05～17:20	移動
17:25～18:25	休憩
18:30～20:30	懇親会・意見交換会
20:30	宿泊

2日目（12/26）

時間	行程
8:30～8:50	集合・移動
9:00～10:00	見学 (特別養護老人ホーム 蘇望苑)
10:05～10:15	移動
10:20～11:30	地域踏査① (山都町フットパス 馬見原コース)
11:40～11:55	移動
12:00～13:00	ランチミーティング (清和文楽邑 レストラン 四季のふるさと)
13:05～13:15	移動
13:20～13:50	見学 (井無田へき地診療所)
13:55～14:25	移動
14:30～15:20	地域踏査② (通潤橋・史料館)
15:30～16:30	移動
16:30	帰着・解散





(4) その他

令和6年度夏季実習の様子を、熊本県の地方紙「熊本日日新聞」と、人吉市の地方紙「日刊 人吉新聞」より取材・紙面に掲載いただきました。



出典：熊本日日新聞 朝刊 2024年8月16日付



出典：日刊 人吉新聞 2024年8月27日号

実習の詳細な様子については、熊本県地域医療支援機構ホームページに掲載中の「令和6年度 夏季・冬季地域医療特別実習報告書」を参照ください。



3. 令和6年度卒業生の声

※五十音順掲載

阿部 貴美香

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「これまでを振り返って」

先日医師国家試験に合格し、いよいよ医師としてのスタート地点に立つ日が迫りくる中、6年間のことを振り返ると、きつかったこと楽しかったこと、嬉しかったこと様々な記憶が蘇ります。

私たちの学年は1年生の終わりからコロナ禍となり、様々なことが制限された時代でもありました。オンライン授業で誰とも話さない1日が続いた時は、人が恋しく誰かと話したいと日々思っていたことを覚えています。誰かとコミュニケーションをとることが、自分の生活において、いかに大きな割合を占めていたのかと気づかされました。当たり前が当たり前でできることのありがたさは、コロナ禍を経験しなければ一生気づくことはなかったように思います。

幸いなことに高学年になってからは制限も緩和され、病棟実習をさせてもらうことができました。実習をする中で、自分の担当患者さんのもとへ日々通うことができる時もあれば、感染流行期には患者さんの元に行くことが制限されることもありました。どちらの状況も経験できたことで、カルテだけから情報を得るよりも、やはり顔と顔を合わせたことで得られる情報がたくさんあると感じることができました。これから研修医、そして医師として働くうえで、忙しさを言い訳にせず、きちんと自分の担当患者さんのもとに足を運び、顔をあわせて会話することを大事にする医師になりたいと思います。

最後になりますが、6年間支えていただきました、地域医療・総合診療実践寄付講座の先生方をはじめ、地域医療支援センターの皆様、並びに熊本県医療政策課の皆様に関心より感謝申し上げます。まだまだ未熟ではありますが、熊本県に貢献できる医師になれるよう、まずは初期研修の2年間で医師として必要な知識・技術・態度を身に付けるために精一杯研鑽を積みたくと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

園川 仁美

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「6年間を振り返って、今後の目標」

6年間は想像以上に過ぎるのが早く、あっという間に卒業目前まで来てしまいました。振り返ってみると、部活や実習で充実した日々を送ることができ、入学当時の自分と比べ、多少は成長できたのではないかと感じています。その中でも、地域医療ゼミに所属し様々な経験の機会をいただけたことは、多くの学びに繋がり、ありがたい環境だったと感じています。

6年間の地域医療ゼミ活動ではたくさんの経験をさせていただきましたが、特に思い出に残っているのは5年次の夏季実習です。実習で班長を任せていただいたため、学年も学校もバラバラな班員をまとめることにプレッシャーを感じていました。しかし、フィールドワークや最終日のプレゼンテーションに向けた話し合いを重ねるごとに、同じ目的に向かって班員みんなが役割を担い、段々と団結していくのを感じました。近い将来、共に地域医療を支えていく存在として、協同して目標を達成できた経験は自信に繋がりました。

また、5年次には地域医療ゼミの一コマを自分たちで作る経験もさせていただきました。テーマを決めることから始まり、伝え方、何を深掘りした授業にするのかなど、たくさんの要素を検討しました。授業の製作側の視点を学び実践できたことは、大変思い出深く、貴重な経験だったと思います。

来年度からは、医師として医療を担う立場の一人になります。幅広い診療能力を身につけ、地域医療の現場で力を発揮できる人材になれるよう、精進していきたいと思います。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習や進路相談でお世話になりました多くの方々に心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

高田 理香子

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「これまでを振り返って」

小学生の頃から父の姿に憧れて医師を目指すようになり、高校時代の特別講義で地域医療に興味を持ちました。それから地域枠の制度を知り、将来的に地域医療に従事することができ、かつ学生の間から夏季実習や月に一度のゼミといった取り組みに参加することができる点に魅力を感じてこの枠で受験をしようと決意しました。浪人も経験し、やっとの思いで大学合格を掴んだあの日が6年も前のこととは信じられないくらい、あっという間の充実した学生生活を送ることができました。そして先日国家試験の結果発表がありました。いよいよ医師としての最初の一步が踏み出せることへの喜び、これまでの環境への感謝、これから始まる医師人生への期待と不安など改めて色々な感情が湧き起こっています。

地域枠生としての学生生活を振り返ると、いちばん印象に残ったのはやはり夏季実習です。地域によって異なる現状やそれに対する課題、取り組みなどを、身をもって学ぶことができました。またその地域で働かれている医師の方々や他職種の方とお話を通して、必要とされている医師像や人間性を知ることもできました。医師として早い時期に地域医療に関わることのできるメリットデメリットなどの話もあり、将来的な自分自身の働き方を考える良い機会になりました。さらには自治医科大学の学生との共同プレゼンもあり、実習のことに限らず、学校生活のことや将来の働き方、地域医療に対する姿勢を話すことで、学生生活に良い刺激をもらっていました。夏季実習に参加することで、クリニックでの地域医療実習ではまた違う課題点を発見することができたりなど、自分の実習にかなりプラスになりました。

4月からは熊本大学病院で初期臨床研修医としてお世話になります。まだまだ未熟な点もありますが、熊本の地域医療に貢献できる医師になるべく日々研鑽に励んでいく所存です。6年間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願い致します。

原 裕介

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「これまでを振り返って」

私が医学部に入学した日、あの時の緊張と興奮が今でも鮮明に記憶に残っています。こうして卒業を迎えることができたのは、多くの方々の支えと協力があったからこそです。

特に友人らには、感謝しています。共に励まし合い、試験や実習を乗り越えることができました。みんなとの出会いが、私にとってかけがえのない財産です。

医学部での学びは、ただ知識や技術を習得するだけではありませんでした。解剖学の実習で、初めて人の体に触れる時の緊張感や、臨床実習で患者さんと接する中で感じた責任感の重さを通じて、医師として社会に出た時、患者さんに対してどのような姿勢で接するべきか、人としてどうあるべきか、ということを深く考える機会が多くありました。

これからは医師として、社会の一員として地域医療に貢献できるよう、患者さん一人一人に真摯に向き合い、常に学び続ける姿勢を忘れぬように、努力していきます。

最後に、これまで支えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

藤川 あおい

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「大学生活を終えて」

私は大学において医学、医療について様々なことを学びました。中でも地域医療ゼミではとても貴重な経験をさせていただきました。毎月様々な角度から医療について学び、学年を越えた交流を通して縦のつながりを作ることができました。夏季特別実習では、その地域の医療、保健、介護現場等を見学させていただき、その地域の特色や働く方々の工夫などを知ることができました。1年

生の時、天草の体育館で踊りを教えてもらい、屋上で踊ったことを今でも印象深く覚えています。

思えば私の大学生活は途中病気で休学したり、思うようにいかないことがあったりと、決して順風満帆ではありませんでした。何とか卒業を迎えることができたのは、周りの支えがあったからこそだと思います。家族、友人や大学の先生方、そしてこの地域の医療、福祉に支えられ大学に復帰することができました。それまで私は何となく1人で生きているような気がしていましたが、この経験を通して自分の周りには手を差し伸べてくれる家族や素敵な友人がいて、住んでいる地域社会とも繋がり、支えられていたことを学びました。

これからは自分自身も助けてもらった医療という分野で、誰かを支えられるような存在になることで恩返しをしたいと考えております。周囲の方々への感謝を忘れず、困っている人がいれば手を差し伸べられるような人間、医師になりたいです。

最後になりましたが、松井教授をはじめ、お世話になりました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

古池 雅明

(熊本大学医学部医学科 卒業)

「6年間を振り返って」

私は大学の6年間を通じて、多くのことを学び、成長することができました。

1年次、夢と期待に胸を膨らませながら大学生活が始まりました。基礎医学の学びでは、専門的な知識の奥深さに圧倒されつつも、試験突破に向けて全力を尽くしました。特に、夏に行われた早期臨床体験実習Ⅰでは、実際の医療現場に低学年のうちから触れる機会を得たことが、その後の学習意欲につながったことを覚えています。

2年次、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業が中心となり、友人と直接交流する機会も限られました。しかし、オンライン勉強会を活用することで、学習を継続できただけでなく、後の国家試験勉強につながるような学習スタイルを確立することができました。また、解剖学実習では、ご献体を通じて医学を学ぶことの意義や責任の重さを改めて実感しました。

3年次からは臨床医学の講義が始まり、4年次からは臨床実習が始まりました。大学病院や市中病院での実習を通じて、将来の医師像を考えるとともに、座学で得た知識を体系的に整理することができました。特に、5年次に総合診療科の河浦病院で経験した訪問診療では、地域医療の重要性を肌で感じました。患者さんが住み慣れた環境で適切な医療を受けることの意義を学び、訪問診療の必要性を強く実感しました。

また、5・6年次には日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で発表する機会をいただきました。他大学の学生や医師の発表を聞くことで、多くの刺激を受け、自身の学びをより深める契機となりました。

これから始まる初期研修では、これまで学んできた知識や経験を生かしながら、より実践的な医療を学んでいきたいと考えています。患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される医師を目指して、日々精進していきます。